

牧野富太郎 [1862(文久2)年～1957(昭和32)年]

高知県出身の牧野富太郎は日本が世界に誇る植物分類学の第一人者です。自らを「草木の精かもしれない」と疑うほど、94年の生涯を通して植物分類学の研究に打ち込み、新種や新品種など1,500種類以上の植物を命名しました。また日本全国で採集調査を行い、40万枚とも言われる膨大な数の標本資料を収集、後世に残した蔵書は45,000冊を数えます。植物知識の教育普及活動にも全国規模で尽力し、地元の植物研究者、愛好家などの育成に努めました。78歳で刊行した『牧野日本植物図鑑』は、富太郎の研究と教育普及の集大成であり、80年以上たった今なお専門家から一般の人まで読み継がれています。



高知県立牧野植物園提供

高知県立牧野植物園 [高知市]

「日本の植物分類学の父」牧野富太郎の業績を顕彰するため、富太郎逝去の翌年、1958(昭和33)年4月に高知市の五台山に開園しました。

「植物園を造るなら五台山がええ」と富太郎が生前に候補地として提案した場所へ建設されました。園内では、四季折々3,000種類以上の草花をはじめ、温室の熱帯花木や、土佐寒蘭センターではカンランならびに日本伝統園芸植物など多種多様な植物に出会うことができます。牧野富太郎記念館展示館では、富太郎が描いた植物図や収集した蔵書、写真などから、その生涯や業績を知ることができます。【アクセス】MY遊バス「牧野植物園正門前」下車すぐ



高知県立牧野植物園提供

牧野富太郎 ゆかりの地マップ in 首都圏

*Places of Interest Related to
Dr. Tomitaro Makino
in Greater Tokyo.*



高知県立牧野植物園提供

高知県観光博覧会のお知らせ

牧野博士の新休日～らんまんの舞台・高知～

連続テレビ小説「らんまん」の放送を契機として、高知県立牧野植物園や佐川町、越知町を中心に、高知県全域で観光博覧会「牧野博士の新休日～らんまんの舞台・高知～」を開催します。

【開催期間】令和5年3月25日(土)～令和6年3月31日(日)



牧野富太郎ゆかりの地マップin首都圏
発行元:高知県東京事務所 2023(令和5)年3月発行
〒100-0011 東京都千代田区内幸町1丁目3番3号 内幸町ダイビル7階
TEL:03-3501-5541/FAX:03-3501-5545/メール:l11602@ken.pref.kochi.lg.jp

令和5年度前期
連続テレビ小説「らんまん」(NHK)

ヤマトグサ

日本人による
新種の命名

仁淀川町名野川で採集した標本をもとに、1889(明治22)年、27歳の富太郎は東京大学の久保三郎と共に「植物学雑誌」に学名 *Theligonum japonicum*、和名ヤマトグサを発表しました。これは、国内において初めて日本人によって新種と認識し、学名が発表された日本の植物分類学史上記念すべき出来事でした。ヤマトグサの記載論文において、富太郎は「極めて珍奇とすべき一新種と書き記しています。」



高知県立牧野植物園提供

ムジナモ

1890(明治23)年、28歳の富太郎は、東京都江戸川区北小岩で世界的にも珍しい水生の食虫植物を発見し、ムジナ(=アナグマ)の尾に例えて和名を付け、精密な植物図を描きました。富太郎が描いた花の精密図が、世界的な分類学書に転載され、牧野富太郎の名を世界に示すことになりました。ムジナモは現在、絶滅の危機に瀕していて、地元による保護活動が行われている埼玉県羽生市が最後の自生地とされています。



高知県立牧野植物園所蔵



① 練馬区立
牧野記念庭園

【東京都練馬区】

牧野記念庭園は、富太郎が1926(大正15)年から生涯を終えるまでの30余年を過ごした住居と庭の跡地です。「我が植物園」として大切にされた庭では、富太郎にゆかりの深いものを含め300種類以上の草木類を季節ごとに鑑賞できます。園内にある記念館では愛用した道具や著作などを展示し、書屋展示室(令和5年4月2日まで一時閉鎖中)には富太郎が使っていた書齋と書庫の一部が保存され、富太郎の在りし日の面影を今に伝えています。

Places of Interest Related to
Dr. Tomitaro Makino
in Greater Tokyo.



牧野富太郎
ゆかりの地マップ
in 首都圏



【アクセス】西武池袋線
「大泉学園駅」南口より徒歩5分

② 東京都立大学牧野標本館

【東京都八王子市】



富太郎の没後、遺族から寄贈された未整理標本(牧野標本)を元に設立。牧野標本は所蔵点数の約3分の1(約16万点)を占めており、現在では野外で見ることができない絶滅した植物等の貴重な標本を多数含んでいます。



【アクセス】京王相模原線「南大沢駅」から徒歩約10分



⑥ 宝蔵寺沼
ムジナモ自生地【埼玉県羽生市】

富太郎が江戸川区で発見した食虫植物ムジナモは、現在絶滅の危機に瀕していますが、埼玉県羽生市の宝蔵寺沼で唯一自生し、国の天然記念物に指定されています。羽生市ムジナモ保存会や行政、大学や地域の人たちの尽力により、保護活動が行われています。



【アクセス】東武伊勢崎線、秩父本線
「羽生駅」からバスまたはタクシーで約15分

③ 小石川植物園

【東京大学大学院理学系研究科附属植物園】
【東京都文京区】



「小石川植物園」の名で親しまれている東京大学大学院理学系研究科附属植物園。富太郎は同大学初代教授の研究室への出入許可から始まり、植物園でも研究を行いました。途中、出入り差し止めにもあいましたが、助手から講師となり77歳まで務めました。

【アクセス】都営地下鉄三田線「白山駅」A1出口から徒歩約10分
東京メトロ丸の内線「茗荷谷駅」出入口1から徒歩約15分



④ 牧野富太郎の墓

【天王寺墓地】【東京都台東区】

94歳で永眠した富太郎は、壽衛夫人とともに東京都谷中の天王寺墓地に埋葬されています。

【アクセス】JR京浜東北線・山手線・常磐線、京成本線、都営日暮里・舎人ライナー「日暮里駅」から徒歩約3分



⑤ 小岩菖蒲園

【ムジナモ発見百周年記念碑】【東京都江戸川区】



1890(明治23)年に富太郎がこの地で食虫植物ムジナモを日本で初めて発見しました。ムジナモの発見から百周年を記念して建てられたこの記念碑は、1990(平成2)年6月10日に富太郎の遺族を招いて除幕されました。

【アクセス】京成本線
「江戸川駅」から徒歩約5分

